

| 受験方式

一般選抜	教科	満点	英	国	日	世	政	数IA	数IIB	他	備考
法	2	400	200	-	(100)	(100)	-	-	-	100	[他]小論文

| 志願者推移 (数値は集計日時点による)

※志願者割合は各年度の志願者÷定員の値を比較 (△:増加% ▼:減少%)

一般選抜		20'定員	20'志願者	21'定員	21'志願者	志願者割合	備考
法	法律	230	1,511	230	1,603	△6%	
	政治	230	1,548	230	1,359	▼12%	

| 入試問題分析

| 英語

入試問題分析	形式、レベルとも例年とほぼ同様。2020年度の大問1は発音問題であったが、2021年度は語彙問題の出題であった。ここは単語の幅広い知識が問われるという点では変わらない。大問2の下線部問題については、非常に難解な単語に関する設問となっているが、ここは満点を目指す必要はない。 大問3：like a fish out of water「場違いで」などの生き物にまつわる慣用表現が出題された。 大問4：例年難易度の高いインタビュー形式の問題である。2021年度はTEDのプレゼンテーションでも扱われた内容が出題されていた。 大問5：例年と比べると、若干本文の文章量が短くなっていた。
--------	--

| 日本史

入試問題分析	2021年度は大問4題、小問50問、すべてマーク方式は変わらず、昨年出題されたグラフ読み取り問題は消滅した。史料問題が最後の大問で出題されたものの、頻出史料のため全体的には比較的解答しやすかったと思われるので、昨年より易化と考えられる。出題形式は、用語選択・配列・正誤問題が大きな柱である。ただ、今年も複数選ばせる正誤問題も出題され、50問中正誤問題が2020年度の14問から16問に増加し、配列問題が5問出題された。文化史は2021年度は「中世から近代の文学史」が出題され、2017年度に「学問思想史」、2016年度に「儒教史」が大問で出題されているので、細かく確認していくことが大切である。 2021年度は正誤問題の選択肢自体が、比較的教科書の範疇で作られていたため、解答が容易なつくりとなっていたが、コロナ禍のため易化したことも考えられる。2021年度は消滅したものの、未見史料問題とグラフ読み取り問題が復活の可能性があるため、慶應経済学部の問題や、他大学の未見史料問題とグラフ読み取り問題を解いておくことも効果的である。基本的には初見のグラフを読み取る能力が必要であるが、もちろん背景知識を増やしたり、教科書や図説のグラフをなるべく見ておくことも大切である。最後に配列問題が5問も出題されたが、そのうち4問はかなり接近した年代を問う問題であった。慶應経済学部の年表を問う配列問題に酷似しているため、経済学部を受験しなくても、年表問題だけコピーしてノートに貼り付けて解いていくことも有効と思われる。
--------	--

| 世界史

入試問題分析	例年、全50問。全てマークシート式で、記述問題は一切ない。2021年度は、空欄補充19問、単答式10問、正誤15問、年代整序4問、誤文の組合せ問題、空欄に入る年号の組合せ問題が1問出題。2020年度は空欄補充25問、単答式11問、正誤9問、年代整序3問、組合せ問題が2問。細かいところでは、2021年度は正誤判定問題の選択肢が4択から5択となった。 最上位生でないと対応が難しい設問が多い。基本重視の学習・標準レベルの演習では全く歯が立たない問題が半数を占めており、山川出版社の用語集「世界史B用語集」や教科書「詳説世界史B」だけでは対応できない問題も多い(2020年度は山川出版社の教材だけの対策だと80点までしか取れないようになっていた)。実教出版の用語集「必携世界史用語」や教科書「世界史B新訂版」、東京書籍の教科書「世界史B」、帝国書院の教科書「新詳世界史B」の細字部分からも容赦なく出題されている。用語集の頻度①～③程度の用語も、説明文中の文章まで把握するつもりでの学習が必要で、そこまで達した人向けの学部。文化史は、2019年度は50問中7問、2020年度は50問中1問のみ、2021年度は50問中8問。2020年度は例外だが、例年は文学部と変わらない重要度。2019年度は年号に絡む問題は3問だが、3問とも年号を大々的に並べ替えさせており、実質24個の年号を問うている。2020年度は14個の年号を把握しておく必要があった。2021年度は8問出題されたが、数十個の年号を把握していなければ対応できない。
--------	--

| 小論文

入試問題分析	全1問、1000字以内で課題文の要約(400字程度)+意見論述。 要約問題で「(課題文の)理解力・構成力」を、意見論述で「発想力・表現力」が問われる。文章量・出題形式・解答文字数・制限時間すべて例年と大差なし。課題文のスピーディな読解と内容の濃い要約文の作成が必要な点は慶應(文)と共通。意見論述については「近代批判+現代的提案」が正攻法で、そのための近代・現代思想についての深い理解も習得しておくといい。
--------	---